

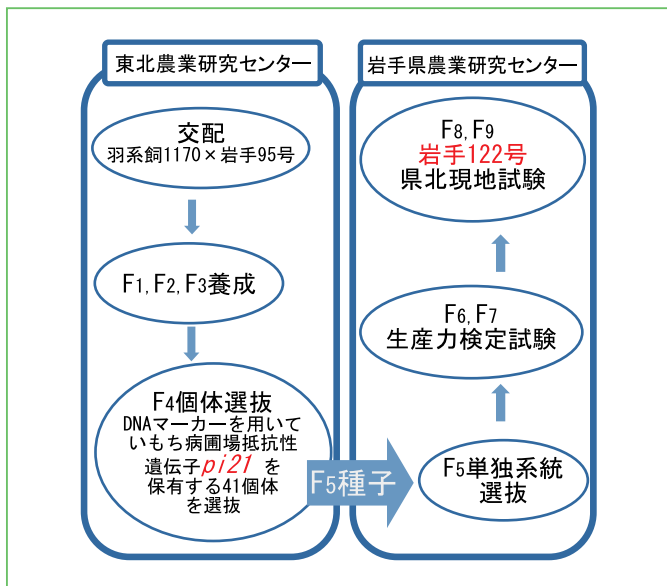
耐倒伏性に優れる早生の飼料用米 水稻新品種候補系統「岩手122号」

米粉、飼料用米等の普及拡大のために、地域に適した多収稲品種の育成を進める中で、飼料用品種には多収性が求められるが東北地域中北部ではさらに耐冷性、耐病性等を付与する必要があります。この品種育成を効率的に進めるために、東北農業研究センター、青森県産業技術センターおよび岩手県の3者は多収稲品種育成の共同研究を行っています。

岩手県中北部において、現行の飼料用米品種「つぶみのり」は、倒伏しやすいことが問題となっており、生産現場から耐倒伏性を強化した早生の飼料用米品種を強く求められてきました。そこで、東北農業研究センターと岩手県は、早生で耐倒伏性に優れる「岩手122号」を共同育成しました。

《「岩手122号」の育成経過》

「岩手122号」は、交配から初期世代の養成、個体選抜を東北農業研究センターで担当し、単独系統選抜以降を岩手県で担当しています（図）。



図／「岩手122号」の育成経過

《岩手122号》の特徴》

「岩手122号」の出穂期、成熟期は「つぶみのり」より早く、稈長は短い（表）。稈長が短いため、「つぶみのり」より明らかに倒伏が少ない（写真）。「岩手122号」の粗玄米重は、「つぶみのり」と同等の多収です（表）。「岩手122号」は、いもち病圃場抵抗性遺伝子「pi21」を保有し、いもち病抵抗

水田作研究領域

太田久稔

OHTA, Hisatoshi



表／「岩手122号」の栽培特性

系統名・品種名	岩手122号	つぶみのり
出穂期（月・日）	7.26	7.31
成熟期（月・日）	9.09	9.15
稈長（cm）	84	91
穂長（cm）	19.0	19.7
穂数（本／㎡）	355	531
耐倒伏性（倒伏程度）	強（0.0）	やや弱（4.7）
耐冷性	やや強	やや強
いもち病 遺伝子型	Pii	Pia, Pib
抵抗性 葉いもち	かなり強	やや強
抵抗性 穂いもち	かなり強	中
粗玄米重（kg／a）	73.9	74.0
玄米重標準比（％）	100	100
玄米千粒重（g）	24.0	22.0

岩手県農業研究センターにおける2013年～2016年の結果。移植・標肥区（14kg/10a）のデータ。倒伏程度は0（無）～5（甚）の6段階評価。



写真／「岩手122号」の草姿（2016年）

左：岩手122号、中：みなゆたか、右：つぶみのり

性は「つぶみのり」より強く、葉いもち抵抗性、穂いもち抵抗性とも“かなり強”です（表）。

《今後の予定》

「岩手122号」は、平成29年に岩手県の飼料用米奨励品種に指定されました。「つぶみのり」の生産地域に1200ha（2020年目標）の普及を予定しています。